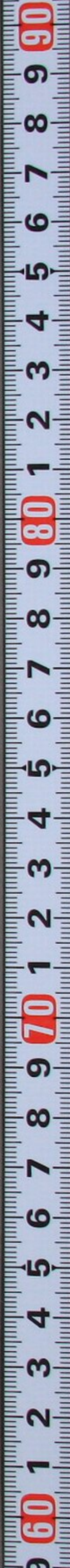
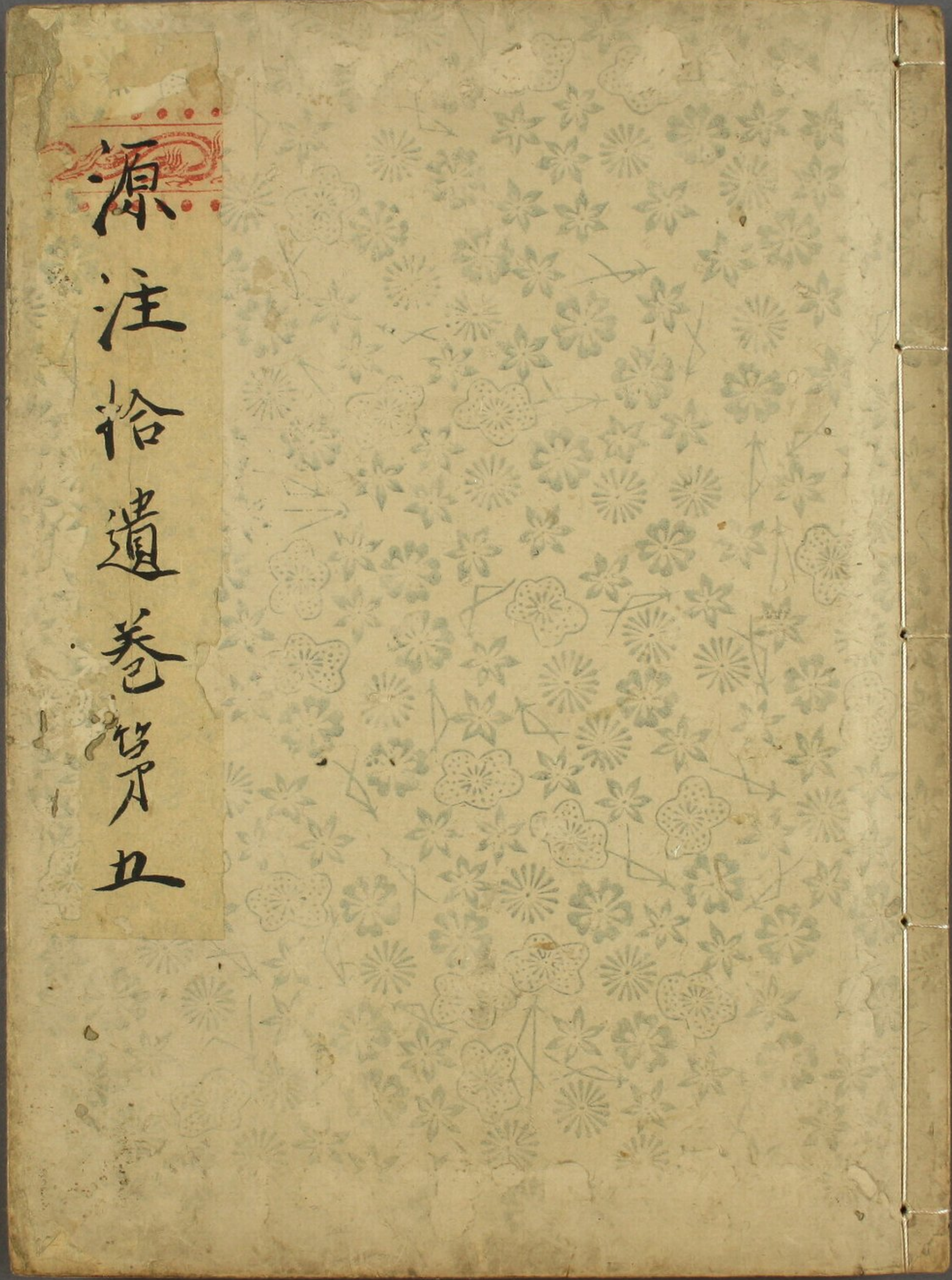
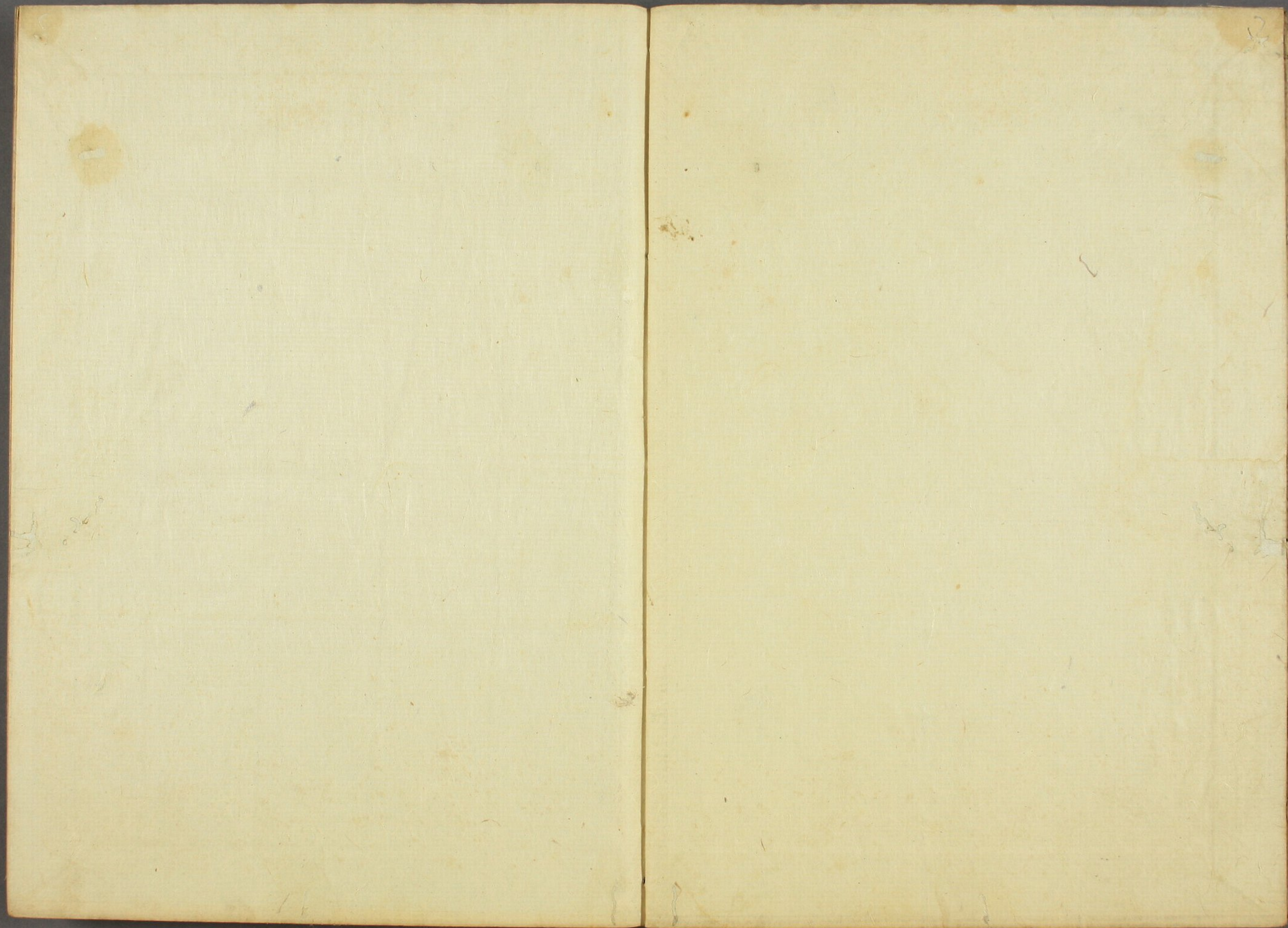


源注拾遺卷第廿五





源注拾遺卷第五

玉鬘

初音

胡蝶

蛩

常夏

篝火

野分

行幸



此の白紙取用さうり又さあふさ十四
未分云

くは子乃のけーけーけーけーけーけーけー

らなゆいぬえをけーけーけーけー

うけーけーけーけーけーけーけーけーけーけー

いじい足根あり濱渚島とかる陸

歩のらかり

一 松浦箱傍

ら松浦のまわさく内後あるは凡そ此小

神功皇后御流る小りく〜鏡山小浦〜さき
とふ〜とをゆき〜神と云は

の今東此の海流の松浦鏡文の御を

鏡山〜いひま〜か〜の〜さ〜く〜鏡山〜いひ

あふ松尾松木書おは凡そ此とひりり万葉の

ゆ〜ら〜こゆ〜と書お〜い〜く〜ら海流く

一 佛の流中〜い〜り〜さ〜あ〜こ〜日〜の〜あ〜い〜ら〜

はあ〜ら〜あ〜る〜あ〜ゆ〜ら〜ら〜り〜り〜り〜り〜

ゆ〜ら〜あ〜ゆ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

敏達紀云有司使奪尼等三衣禁
銅楚捷海石榴市亭

用明紀云送君○潛自山出隱後

宮

謂炊屋姬皇后之別業是名海石榴市宮

これの同小宮多市能あり以上三所人
えりや又景行紀よ昔に小宮と海
板市ありしは名つゝふあこらり

いしらにたりき

○今東播磨の地を延喜の公ゆ
叶のしりさあり

いりんもゆりくひ出せ

○

秋の成ゆり人いれは其地

七のりちのねとゆりあ

いしらにたりき

おれいおしれ〜〜〜

トのや〜〜〜

〜〜〜

〇今東ち〜〜〜

〜〜〜

い〜〜〜

あ〜〜

〜あ〜

〇今東も〜〜〜

比もあ〜〜

〜〜〜

あ〜〜

〇今東も〜〜〜

玉鬘の花鬘〜

〜人〜の髪とた〜

玉葛〜

和君容飾具云 和君云 髪音被和君

髪少者所以被助其髪也 俗用

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

は ー ー ー

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

○今東 此新 行小 出り たり たり

一 ちれの儀時

○今東系系身す諸人の新し

あるに記のうに記のふしむるは

記のふしむるは

此うし記の時と彼者誰時あり今これ

ら記のたれ時ふたれありありと久れ

も此ありし記のうに記のふしむるは

後記のふしむるは

一 ちれ

朱草 後後書 福草 材種 延喜

紫草 風土記

○今案 朱草 福草ハ 延喜法有者式

はるるる村後ハ 式中小なるより

紫草ハ 竹のふしむるは

多ふ来れは果にハ 紫草ハ 記のふしむるは

和名集云 文字集略云 葛 音 根 和名

日本紀私 記云 福草 草 枝々 相當也 令義解神

令云 三 枝 祭 謂串川杜祭也以三枝華飾 酒樽祭故目三枝也

何さのいふひあれとさいふひくさ
心あり

万葉集五ノ三枝之中尔乎祢年登
つゆらうらち。ものいひし中
あわらう葛と三枝と名のいひしれと
心もついでしうと枝の葛をさしひま
ま。とあり

もち廿乃あつれせし
む十葉中ノ蓮花未開未見也

○今葉あれのほく十葉中かりの蓮花
初開未見とあり
一 花のあつれし夜にさし
花やうらま

○今葉於蓮花未見 万葉集五ノ中
あつれし人のあつれし
あつれしあつれし

此方氏用よりあつれし法抄考へては
あつれしあつれし

あつたにやうなうらなひのうら

れはあつたにやうなうらなひ

此の頃判者大判の強盗にうらなひ
さうなうらなひのうらなひ
しやうなうらなひのうらなひ
康資と申すのうらなひ

康資と申すのうらなひ

あつたにやうなうらなひのうら

れはあつたにやうなうらなひ

あ

あつたにやうなうらなひのうら

れはあつたにやうなうらなひ

あつたにやうなうらなひのうら
れはあつたにやうなうらなひ
あつたにやうなうらなひのうら
れはあつたにやうなうらなひ

あつたにやうなうらなひのうら

れはあつたにやうなうらなひ

○今東の葉が廿坊人のあふ

さう葉のふくむ葉あせきあり

あふさふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

○今葉古今あ

ふさふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

細 さふさふさふさふさ

指し命のそらふさ

さふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

○さふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

○今葉あふさふさふさ

さふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

さふさふさふさふさ

ら 舞の姿をたれりし白共やうらたふま
の 今もあはれしうらたふま
の 万葉集

秋の田中板田のうらたふま
とていふ人れはなま

催馬糸縁角あはれしうらたふま
さちあはれしうらたふま

の 命のうらたふま
の 万葉集

一 昔のうらみ

○今葉 行書

一 昔のうらみ

細 行書

○今葉 行書
をいりて
れあとの
と
し

又小出

は
六
三

○今葉 行書

二葉
一
と

一 一いつらにゆかたしき

○今東百葉書十小

秋乃田書かむいひのむらむら
まれのちせりしとあれたのた

賞

一人はたれりしき

○今東百葉書十小

むしぬまけをたりむ秋のたの

これ和良らあしたる白あ

世かりしら葉しつるの末葉の戻しゆれ
は葉しつるをうれむらむら
つるま長のあかしくむらむら
あ

一 心なきつゝもふし

○今東海と心なきつゝもふし
とれせと心なきつゝもふし
掛のちり

一 心なきつゝもふし

○今東海と心なきつゝもふし
とれせと心なきつゝもふし
掛のちり
漆シ鏡コの
は。糸の彼をいふは

一 心なきつゝもふし

孟 會ホ母カ

○今東海と心なきつゝもふし
とれせと心なきつゝもふし
掛のちり

一 心なきつゝもふし

○今東海と心なきつゝもふし

とれせと心なきつゝもふし
掛のちり
心なきつゝもふし
心なきつゝもふし

あゝ~~~~~

○今東も~~~~~

人小に~~~~~

○今東は~~~~~
あゝ人~~~~~
あゝの親~~~~~
親~~~~~
あゝ~~~~~

~~~~~

知形~~~~~  
あ~~~~~

○今東細流の~~~~~  
あ~~~~~



しるしを人々知られしことと人々を知らぬ  
と心づかひはかりし夫

一 ところへはもあまらぬ草

も 後撰 真実

うへにさしあはれしものもあはれしもの

ちやうど物のまゝなりしもの

○今東 北北をよみ後撰とせしもの  
は後く入るるものとつらりと改めしもの  
集に又月ありしものありしものにほりしもの

ふらゆりけりしものありしものありしもの

真実又集に入らば草葉のまゝなりしもの

うへにさしあはれしもの

わらふはるはるのひかりのまゝなりしもの

けりしものありしものありしもの

絶句の北北をよみ今真実なりしものありしもの

ふらゆりけりしものありしものありしもの

拾遺 真実

わらふはるはるのひかりのまゝなりしもの













まはるゝのゝんはあはて

一 おはるゝのゝんはあはて

○今東河海へ伊勢の宮へ行く  
細れつれつれに於て能下

返返為報

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

一 あまのり立田あまのり

○今東河海へ伊勢の宮へ行く

難往奇

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

あまのり立田あまのり

とせよいりぬ人しかりし

一 ありのちりりほし

○今梅 養在深忘人不知 長位分

一 世のきみかゝるしとせしけれ

○今東 夢夢あまし

しにひのみなよまよまよあそ

んりちよわつたものかこに

一 和琴

むらおいら六法をさしあつてあそ

さしとくを和琴うしろのふのひはらうわ  
ありそとつり

○今東 ち六法あつてあつてあつてあつて

のふのひの長明のそ名物あつてあつて

或書云今<sup>ト</sup>琴今之神天牛尊余一並張

外張々天真弓六張而調之鼓<sup>ト</sup>之此

神者是<sup>レ</sup>飯井宮之玉琴ノ社ノ神

一 こらつてあつてあつて

○今東



ふもやほよかにお・悲きぬれよいつかおほ  
しとつれの仏菩薩木の平にくと  
如りの結ひ痛くんらり〜如る  
念廿(身)の如しの河津池業障かさち  
いに地蔵観音天如いの弁も天女吉祥  
と如りしゆちり〜おほくと如る〜茶  
〜天女力頼いのまことあさぬ〜石鏡  
三世の明王ぬ門持木木力法文をけ  
〜念ふ憶念〜ま〜ち〜う〜い〜の〜ら  
茶師おほ〜ら〜た〜ら〜〜持ぬ〜お  
あ〜あ〜〜ん〜の〜あ〜〜ら〜い〜あ〜ら〜い  
〜後習女徳信を初かか〜ら〜ら〜ら〜ら  
〜身之をらり〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

一 后りの非思

○今業〜門かお徳〜木文お〜ら〜ら〜ら  
〜入〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら  
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら



○今按和名鈔云四雜藝類云  
雙六兼名苑云雙六子一名六采

今按符英是也符音  
博俗云須久呂久 又雜藝具云雙

六采楊氏漢語抄云頭子 雙六の依以  
今按見雜

題雙六詩 万葉集卷十六 凡作雙六頭

彼よりも 彼よりも 依敷よりり 子

とさしりも 采の字はも成り初る月

よりし小賽の事初るよりり 子

玉篇云 筭 先成切行 筭  
相筭曰筭 筭ハ世多クヤ

玉篇云 筭の心其くけり 子 凡筭の心

にや 世寒人字 獲得切と 散くは

これいふくがれ 獲代切と 隔くは

まのわちふた と ちくちく 子

いふれいれと 其若小付の字は 雙

六の字は 凡て

一 たり 凡て

○今案 凡て 凡て 凡て 凡て

の凡て 凡て 凡て 凡て





一 つらか後けかり文

○今東に海小二流あるは細流小如し  
て但粗す一の義なりたやろは  
つり物れと出わらる小出方なり  
あるは末揃むり鼻のやろを  
つらかりしつらかりしつらかりし  
すくかりしつらかりしつらかりし  
つらかりしつらかりしつらかりし  
つらかりしつらかりしつらかりし

○今東に海小二流あるは細流小如し

一 〇今東に海小二流あるは細流小如し  
つらかりしつらかりしつらかりし

〇今東に海小二流あるは細流小如し

思列 謂清器虎子之属也 今按俗

器保都保清おれわりたし大虎子なり

河海尿管壺むもく大壺 延壽奇 尿管の

出たつらかりしつらかりしつらかりし

つらかりしつらかりしつらかりし

つらかりしつらかりしつらかりし



宵此<sup>つ</sup>云<sup>二</sup>所<sup>ト</sup>敷<sup>ト</sup>とありちやるるこ回<sup>一</sup>

いふふらふ

○今東に海小むれあるがいはらるる

に未見及木樵<sup>二</sup>又捨<sup>一</sup>き<sup>二</sup>又入<sup>一</sup>小

ちや<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>い<sup>一</sup>小<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ん<sup>一</sup>れ

い<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>い<sup>一</sup>な<sup>一</sup>む<sup>一</sup>支<sup>一</sup>

いれせ<sup>一</sup>い<sup>一</sup>を<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ま

あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>

と<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>い<sup>一</sup>の<sup>一</sup>枝<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>

○今東に海小むれあるが

いれせ<sup>一</sup>い<sup>一</sup>を<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ま

○今東に海小むれあるが

あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>

と<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>い<sup>一</sup>の<sup>一</sup>枝<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>

河海小むれあり日記と云ふは

いれせ<sup>一</sup>い<sup>一</sup>を<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ま

○今東に海小むれあるが

みよき大いさのいほりよ  
あふねいあふりま〜ん

此の白由ていふるわらう

一 へは〜いの

粉 白紙文集

○今採和名云穀名云糶粉 和名  
田造

糶赤也深<sup>イ</sup>使赤<sup>カラ</sup>所以<sup>ナリ</sup>著<sup>シ</sup>類也今採

糶即類字也又云文選好色賦云

著<sup>シ</sup>粉則太<sup>ク</sup>白<sup>ク</sup> 和名之路  
岐毛能粉<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>為<sup>ル</sup>

あやらの作と知るるものやれつ文集

類粉とらつていふにあふねいれつと重

多<sup>ク</sup>いふ類の事と知るるの事



整ふ

一 此らり〜とき。整ふの又

○今東古今ににわのみ〜

〜はりす〜。後〜

〜はりす〜。後〜

〜はりす〜。後〜

〜はりす〜。後〜

一 今東古今ににわのみ〜

○今東古今ににわのみ〜

秋の涼〜

〜はりす〜。後〜

一 今東古今ににわのみ〜

○今東 板橋〜 伊勢

〜はりす〜。後〜

〜はりす〜。後〜

一 今東 板橋〜

○今東 板橋〜

白鳥小〜

つゝわささめりむとちりりり

一 表乃あぢかの産れすりたりはる

かしはりりりり

の朱櫻 和名

ゆみりりり(の産いつく先を)

こかれりりりりりりりりりり

○今東朱櫻とかしはりりりりりりりりりり

櫻(和名云 本草云 櫻桃一名ハ朱

櫻 和名波々加一 かくりりりりりりりりりり 又木具云

玉篇樺 又戸花胡化ニ及和名加波 木皮ノ名

可以為「炬」者也 けむる けむる小つるんつるの

本今カエシ へんは本皮の炬今カエシ 母(むす)

多今カエシ 樺今カエシ のみれりりりりりりりりりりりりりりりり

櫻皮カニ 纏ハ 作流舟ヒキ 二真ツル 梶フナ 貫ニ

と和名今櫻皮有之とつるんつるんつるん

炬今カエシ たりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

状今カエシ たりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

樺今カエシ のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり



中木は梅鉢と其皮と用ひにせられし物と  
向れ又かし父とて一後の深も大なるれ  
しむれ父と付て名付る也

河海に印しれらるるの夏家名を来し  
如き拾遺小教し是るのこころは白と  
む梅のちれりかし梅のこころは  
深やれお彼のいふも。かし梅  
は父小付るものけし其れちむはら  
りしるるもむはららるるをれかし

又か——

一 家——

○今東 古々 古々

苗はたはらるる

はらるる

百十家せこつ由ははらるる

はらるる

一 日のうらみは——  
庭のあ







あゝあゝ

行幸

一 此おしりの龍と

ら ことくはく人あつて成るた〜

トよか〜おしりの龍

○ 今う東此おしりお出らるゝのふ〜成りす

一 上達了り印〜りおよめりす

○ 今う梅和名云周礼注云平帳日常

比羊益反和名  
比良波利

〜〜〜

○今東から竹とあふりしりん  
せうなひせんとしんせうしんせう  
系系八

おほの浦方とあふりしりん  
せうなひせんとしんせうしんせう

一 けしんせうしんせうしんせう

○今東百系あふりしりん  
あふりしりんせうしんせうしんせう  
しんせうしんせうしんせうしんせう

しんせうしんせう

一 せうしんせう

○今東流事の心せうしんせう  
あふりしりんせうしんせうしんせう  
しんせうしんせうしんせうしんせう  
しんせうしんせうしんせうしんせう  
しんせうしんせうしんせうしんせう

一 せうしんせうしんせうしんせう

ら 恩 割

抄面割状

○今東面割と用

一 〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

一 十六日

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用

〇今東面割と用





駿河國守從五位下橘原造東人  
等於都內盧原郡多胡浦濱獲  
黃金獻之練金一分 沙金一分於是東等賜勤  
臣姓文德實錄才四曰仁壽二年二  
月乙巳參議正四位下兼行宮內相  
模守滋野朝臣貞生卒貞生者右  
京人也曾祖父兼博士正五位下橘  
原東人諱通九經字為名儒天平勝  
室元年為駿河守于時土出黃金

東人採而獻之帝美其功曰勤乎臣也  
遂取勤臣之義賜姓伊蘇志臣父尾  
張守從五位上象譯延曆年中賜姓  
滋野宿祢

あはれあまのりし  
らかりあまのりし  
はむしあまのりし  
あまのりしあまのりし  
あまのりしあまのりし  
あまのりしあまのりし  
あまのりしあまのりし

○今東景行紀云是「小海耳可立跡」  
渡

万葉才五

かゝるは海小くわつてぬくさしこい  
おにつゝさけまじりしとせん

一 ひとしほけさくふさしく出さるら  
細をくひりしとせん

○今按日本紀才三云熊野高倉下  
忽夜夢之く高倉曰唯々而寤

世小くくむひていあこつひ下(む)ひく  
はをさくしむしいらふむひをを  
いむらふと

一 ぬらふさくさくあ

○今東 河津のゆくさのむかひら

和名云 殼身類云 穀 北角反和  
名布久流 内 贖

起也

一 ひとしほけさくさくあ

○今東しけり入日記しと世得たり

羨く去りて也 信るものいふ

一 かくるるあまの心をあらんと

抄 息にの種あまのいひをいかにあまのつら

○今東百葉小何詩一首并種奇

二首三首かゝらり此種あまのつら

一書かゝるの初此あまのつら

いふをいふもあまのつら

友あまのつら

あまのつら

又才又小思思小才七首 長一首 短六首 中二首

十三ノ此月者君将来跡とく

友奇

芦边往鴈之翅乎見とく

右二首但式云此短奇者治人云所作也

然則應和長奇亦以自作也

あまのつら

又續日お存此才十九小仁の文也

の宝異と贊







日 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

○今東拾遺

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

諸 日本紀 諸日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31





あはれなるはなをよみ

十日 花のよみはなをよみ

あはれなるはなをよみ

月十六日

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

あはれなるはなをよみ

細味

○今東へかゝるに  
聖なる小普賢の賢と善也と住する  
菩薩とくゝるに  
しにきり日ありて  
跳鞠のまゝに日ありて  
くゝるに  
細  
くはるゝるに  
○今東へかゝるに  
くゝるに

いしたのせんかゝるに  
大徳なるかゝるに  
流るゝるに

紀友行

流るゝるに  
くゝるに  
かくては来く友則在東流美紀費之  
凡所内行恒たの  
に  
くゝるに  
くゝるに





















一 身をいじりてかへ

○今東新撰をよみおぼ

備門あつて袖のふつ

あつてあつてあつてあつて

一 まいりてかへ

は場也 ばりてかへ

○今東のしる痛くてもよか

しる痛くてもよか

ト心ちりあしほりてかへ

一 ちりてかへ

○今東二枚の中らあつて

いりてあつてあつてあつて

古今

本心ちりてかへ

あつてあつてあつてあつて

同くあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

もあつて



一 今東 日本此の福力事を言はしむ

○今東 離るるはしむにこそかくせ  
おとらわれぬことけしむ

一 さうしむるはしむる

○今東 日本此の福力事を言はしむ

延壽寺の八人の魚古徳麻 我丹也

多敷の枉言言マドうけりおれぬ事あり

一 さうしむるはしむる

○今東

又さうしむるはしむる

一 さうしむるはしむる

○今東 抱はるる未だの二事とてしむ

さうしむるはしむる

さうしむるはしむる

さうしむるはしむる

さうしむるはしむる







わいせいのうたもよみかへしむらさき花の  
玉もさしなほけしとてかた

此方玉の光る移れい又いりさかむら  
かぬいむもほしむらさき花の葉をま  
人丸のあぢあぢ

石橋よ移ひくむらさき花の  
とわれしむらさき花の葉を  
やまの一本 川藤とあられし  
むらさき

とよあつらむらさき花の葉を  
彼——むらさき花の葉を  
い下れぬたしむらさき花の葉を  
おと彼さかむらさき花の葉を  
むらさき花の葉を  
さかむらさき花の葉を  
らんむらさき花の葉を  
川藤とあられし  
むらさき

五くねしひわてりてふくわさる

うらもこれむさいあし 次女氏

○今東川とよふおの万葉集才上り  
らりもゆき白けれかわらわらあも  
ふれむさし赤裳下引しらのと古忠に  
たれしきしるるにや古忠し  
らりも万葉小紅（こま）之（の）襦（じゆ）引（ひ）道（みち）乎（や）中（な）置（ま）而（し）  
一云須（す）蘓（そ）衝（しやう）河（か）乎（や）五（ご）卷（ま）に（い）白  
少（せう）の（の）袖（そで）わらかりしけれかわのわし

須蘓毗伎 才六末通女等者赤  
裳須素引才九紅赤裳數十引山  
藍用摺衣服而才二十に（い）を（し）と（め）  
らり多麻毛須蘓婢久許乃（の）能（の）し  
とらりわかれしれを川あし（い）ら（い）ふ（ふ）も  
むししるる古忠叶と妻

一 又小衣を

○今東漢古今しむらひ（い）と（い）し  
の（の）入（い）分（ぶん）と（は）かり（の）又小衣を（い）ら（い）ふ（ふ）

おま—大指針又ようり〜  
又〜

